

イースター礼拝（中学放送礼拝より）

聖書 ルカによる福音書 24 章 36 節

「イエスご自身が彼らの真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。」

日本では、「イースター」といえばディズニーのパレードを思い出したり、卵やひよこのお祭りと思っている人も多いかもしれません。実は、イエス・キリストの「復活」を祝う日で、イエス・キリストの誕生を祝うクリスマスと並んでキリスト教の重要な記念日なのです。と言われても、誕生ならともかく、「復活」なんてよくわかりませんね。

「復活」といっても、死んだ人間がゾンビーのようによみがえったということではありません。『星の王子様』という本に「本当に大切なことは目には見えない。心で見なければ」という有名な言葉があります。聖書に出てくる不思議な話を、ただ「ありえない」と退けるのではなく、「心の目」で読んでほしいと思います。

聖書には、イエス様を失って、悲しみと絶望のどん底にいた弟子たちが、「心の目」で、新しい出会いをしたという物語が描かれています。イエス様が目の前にいた時には気づかなかった本当の姿に気づかされた。その「心の目」でしか見えないイエス様は、弟子たちの真ん中に立って、「あなたがたに平和があるように」とおっしゃいました。これは、イエス様の国のことばでは「シャローム」と言いますが、「おはよう」にも「こんにちは」にも「さようなら」にも使える便利なあいさつのことばです。今までと変わらない何気ないあいさつのことば、でもそれは同時に、悲しくて苦しくて不安だった弟子たちの心に、深く温かいイエス様の愛を伝えてくれるものだったのではないのでしょうか。「大丈夫、これからもずっといっしょにいるよ。」というイエス様の愛を知り、弟子たちは心の平和と喜びと新しい力を与えられました。そして、自分たちの悲しみの中から立ち上がって、世界中の人々にその平和と喜びのメッセージを伝えていきました。そこからキリスト教が生まれたのです。

明日から休校になり、しばらく友だちにも先生にも直接会うことができませんが、お互いを思いやり、つながり続けることはできます。目に見えなくても、確かなものがある。そのことを忘れないで、次に会うまでの時間を過ごしてほしいと願っています。

お祈りをします。

神様、今日共に過ごせるこの時間を感謝します。

今、目に見える世界がゆらいで、私たちは不安や恐れでいっぱいです。そのような時にこそ、心の目を開いて、大切なことに気付いていけますように。どうか私たちに、「シャローム＝心の平安」をお与えください。それぞれの家庭で過ごすひとりひとりとあなたが共にいて守り支えて下さい。イエス様を通してお祈りします。

アーメン

（聖書科 T.M）